

お盆 亡き人の願いに 出あい 手を合わす

お盆は、正式には「盂蘭盆会^{うらぼんえ}」と言いますが、別の言い方は、「歡喜会^{かんぎえ}」。

「歡」は身によるこびがあふれることであり、「喜」は心によるこびがあふれることであると親鸞聖人は「一念多念証文^{いちねんたねんしょうもん}」に記されています。

それでは、なぜ「お盆」が「悲しみ」ではなく「よろこび」のご縁になるのでしょうか。

お盆を迎えられる方にとっては、かけがえのない方がお亡くなりになり、「悲しみ」や「つらさ」はとても大きなものだと思います。絶望にも似た思いが心の中をうごめいているのかもしれませんが。

しかし、亡くなった方は「悲しいもの」「つらいもの」になった訳ではなく、仏さまとなられて、私たちを包み、照らし、育てくださっています。

「できることなら、もう一度会いたい」という気持ちが増している方々にとって、「お盆」は、亡き方の「願いに」^{であ}「出会う」ご縁だといえるのかもしれませんが。

人は去っても その人の言葉は残る
人は去っても その人の温もりは残る
人は去っても その人のやさしさは残る

「いま私の合わす手の中にかえってきてくださるこの言葉を、盆のご縁でお参りされる方々に紹介させていただきます。

懐かしい方々のご生涯を偲び、共に過ごした記憶やご恩を振り返りながら、感謝の思いで仏さまに手を合わせるご縁を頂いているのは、先立たれた方々が、仏さまとなって私に「はたらき」を届けてくださっているからであり、いのち終えて往かれた大切な方々は「お盆」の時期だけでなく、私がお念仏を称える時に、すでに至り届いてくださっているのです。



この「私」もお浄土へ生まれるみ教えに出わせて頂いていることを、私自身が称える「南無阿弥陀仏」のお念仏から頂くことができたとき、よろこびがあふれる「歡喜会」としてのご縁となるでしょう。

「悲しみ」深きご縁が「よろこび」へと転ぜられる「お盆」を大切に過ごしたいと思います。

電話：088-841-3870

